

# 昨秋より増勢のAHU

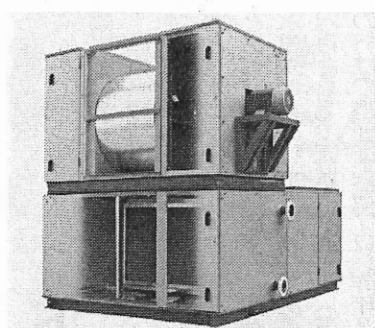
エアハンドリングユニット(AHU)の昨年度出荷は104割の1万6千451台で着地したが、15年度は第2四半期で前期比97割の8千412台とやや低迷。しかし悲観論は少ない。今年度前半は建築遅れが響いたが需要は消滅していないためだ。昨年10月から年末にかけての各社操業度は高い水準にある。本年秋には五輪建設ラッシュが本格化するが、この場面でのAHU需要拡大は19年度との見方が支配的である。

## 新晃工業 最適提案で需要に応える 目的に応じた多彩な機種構成

空調機器総合メーカー、新晃工業(社長 武田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5)は、中央熱源方式(セントラル方式)空調システム向けにエアハンドリングユニット(AHU)、ファンコイルユニット(FCU)など二次側トップランナーとして幅広い空調機器を供給する。一般に中央熱源方式はリニ

ューアル時、別方式への変更に伴う工事の負担が発生せず、全体としてコスト面での優位性を持つとされる。また、熱源や二次側・補器類などユニット単位でのバージョンアップを図りやすいといった諸点も特徴とされる。設備設計者の意向とすることが可能になる点も発注者メリットとして大きい。新晃工業は、そうした同方式の良さを最大限に生かす空調機分野で最前線を走り、建築物の目的に応じた多彩な空調システムに対応している。

同社の技術・開発力はコンパクト型空調機AJEC型、節電型空調機プラグファンシリーズ、プラグファンシリーズ、プ



ダブルプラグファン  
調機だ。同空調機は、処理空気の水を接触させ、外気中に含まれる水溶性のガス成分を除去する方式として滴下式とスプレー式がある。

このところ旺盛な需要が続く分野の一つに半導体/電子部品関連の生産工場があるが、それらの分野でニーズに応じているのがエアワッシュ組込空調機だ。同空調機は、処理空気の水を接触させ、外気中に含まれる水溶性のガス成分を除去する方式として滴下式とスプレー式がある。

また、最近の開発成果の一つが空調設備の節電を狙いにした「エネルギー監視装置」。熱交を通過する冷温水の流量と温度を計測することで投入熱量を算出する仕組みの装置。具体的には、熱交の冷温水出入口に差圧センサと温度センサを搭載し、流量と温度を計測することで投入熱量をアラウトプットさせる。どのエリアでどれくらいどの量が使用されているかを監視することで効率的な省エネ・節電につなげる。空

調機1台ごとの熱量を容易に検出でき、特別な配管も不要。空調機の熱量監視をはじめ、デマンド制御、メンテナンス時期の判断など様々な用途に使える。

病院・介護施設向け空調システムでは抗菌加工クリン空調システム、クリン加湿器組込外気処理機「クリンキューブ」、クリンキューブの抗菌銅「Cu+」仕様となるクリンキューブCu+、4床用空調機などのラインアップで医療・介護現場の要望に対応した最適ソリューション提案に取り組み。医療・介護施設でのニーズの中心にあ

るのは、院内感染の低減や空気の高清浄度維持。中央熱源方式を採用する施設では同社のコンパクト型空調機の導入事例を多く見ることが出来る。

さらに、近年、市場が拡大しているデータセンタ(DC)の熱対策では電算型空調機(DE型)をメインに市場ニーズに対応している。電算型空調機にはベルト駆動型のDEIBと直動運転型のDEIDの2タイプがある。風量範囲は両タイプとも約1万m<sup>3</sup>/hから約3万m<sup>3</sup>/h。高い省エネ効果も求められるためプラグファンの搭載でニーズに対応する。